

新しい方言語彙・三陸地方特有語彙

武田 拓

1 はじめに

気仙沼市での動態が注目される語彙 3 項目について、面接による多人数調査を行った結果を報告する。家族・友人とくつろいだとき、という場面設定である。対象者は高年層（2006 年の調査時に 60 歳以上の男性 12 名、女性 10 名）、中年層（同 40 歳から 59 歳の男性 8 名、女性 8 名）、若年層（同 20 歳から 39 歳の男性 6 名、女性 8 名）、少年層（同高校生の男性 10 名、女性 10 名）である。

2 調査結果

以下、調査結果を図で示し、それぞれに若干の考察を加える。男女は分けず、年齢層ごとに集計し、回答率を百分率で示した。

2.1 運動着

（質問文）主に子供が運動するときに着る服を何と言いますか。

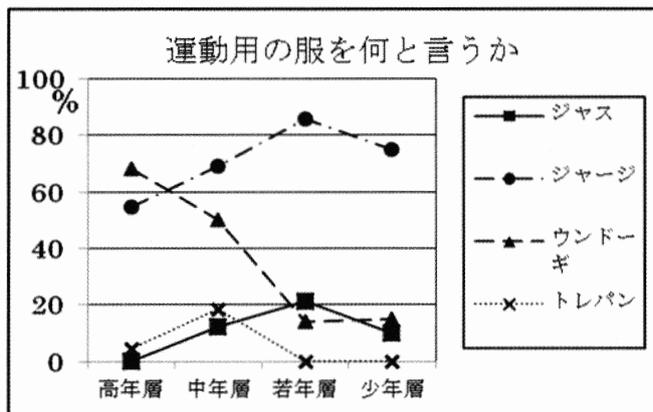
ジャスは宮城県の「気づかない方言」とされているが、宮城県の北端である気仙沼市での動態を調べた。全国的にはジャージが一般的な、主に子供が運動するときに着る服のことである。結果（複数回答可）を図 1 に示す。ジャスは気仙沼市でも中年層・若年層が使用しているが、いずれも使用率は低い。ジャージは上の年齢層、ウンドーギは下の年齢層に多い。トレパンは高年層・中年層のみが使用している。なお、複数回答が得られた場合の使い分けの有無およびその内容についても興味深いところだが、調査時間の制約上、今回は調査項目とはしなかった。なお図 1 に挙げた以外に得られた語形には、ランニング（高年層 1 名）、パンツ（高年層 1 名）、ウンドーフク（高年層 1 名）、ジャンパー・ジャンバー（高年層 1 名、中年層 1 名）、タイツ（中年層 1 名）、タイソーギ（中年層 2 名、若年層 2 名、少年層 1 名）、タイイクギ・タイクギ（中年層 1 名、少年層 2 名）がある。

図 2 はジャスを使用しないと回答した話者に対し、ジャスを過去に使用したかどうか、ジャスを聞いたことがあるか（よその土地で聞いた場合も含む）どうか尋ねた結果である。少年層 4 名については調査もれのため集計から除外した。過去に使用したのは中年層、若年層に限られる。聞いたことはあるが使用しない、使ったことも聞いたこともないという回答率の高さからすれば、気仙沼市では方言形ジャスはそれほど広まらなかったと言えよう。1998～1999 年当時、仙台市でのジャスの使用率は高年層で約 20 パーセント、中年層で約 75 パーセントであり（武田拓(2000)

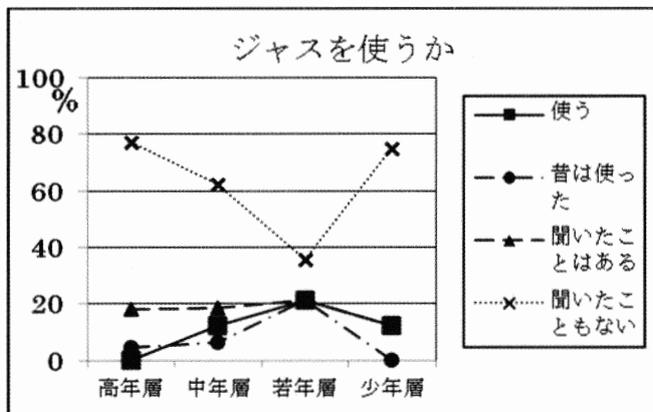
による)、また 2001 年当時、石巻市でのジャスの使用率は高年層で約 5 パーセント、中年層で約 45 パーセントであった(武田拓(2003)による)ことから分かる。

さらに、図にはしなかったが、ジャスを使用する話者に対して「もしお友達と一緒に全国放送のテレビに出演されてお話しになるとしたら、なんと仰いますか。」と尋ねたところ、いずれの話者もジャスではなく、ジャージまたはウンドーギを使用すると回答している。

(図 1)



(図 2)



2.2 ページワン

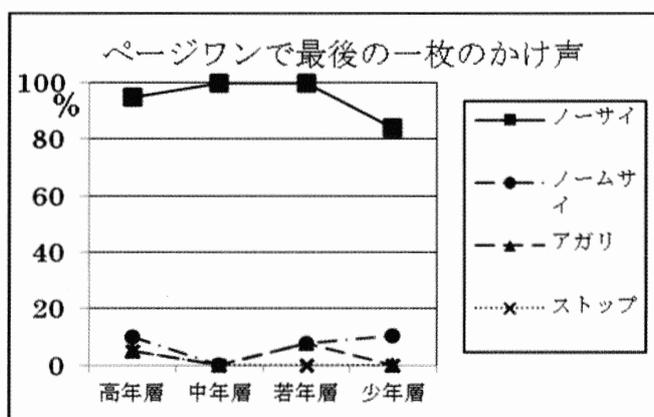
(質問文) トランプ遊びで「ページワン」というのがありますね(知っていたら質問を続ける)。
最後の一枚を出すときのかけ声を何と仰いますか。

「遊びを知らない」「遊びは知っているが、したことはない」「忘れた」、および「無回答」を合計しても高年層 2 名、中年層 2 名、若年層 1 名、少年層 1 名のみで、集計から除外した。遊び自体は各年齢層に広く普及していることが分かる。結果を図 3 に示す。ノーサイが各年齢層と

も約 90 パーセントの使用率で、ノームサイ、アガリとも、各年齢層で 10 パーセント以下である。図 3 に挙げた以外に得られた語形には、ストップ（高年齢層 1 名）、ページワン（少年層 1 名）、ノーサイド（高年齢層 1 名）、ノ（少年層 1 名）、かけ声なし（少年層 1 名）がある。

1998～1999 年当時、仙台市では各年齢層ともノーサイに比べてノームサイの使用率が圧倒的に高く（武田拓(2000)による）、逆に 2001 年当時、石巻市では各年齢層ともノームサイに比べてノーサイの使用率が圧倒的に高かった（武田拓(2003)による）。また、宮城県内でのグロットグラム調査の結果では、仙台市に近いほど、また年齢層が低くなるほどノーサイに比べてノームサイの回答が多くなる（武田拓・半沢康(2003)）ことから、石巻市同様、気仙沼市にもノームサイはそれほど広がっていないと言えよう。

(図 3)



2.3 オシバテ

(質問文) 酒の肴（お酒を飲むときのつまみ）のことを、「オシバテ」「オスバデ」などと言うそうですが、なんと言いますか。

はっきりとしたことはわからないが、分布領域は宮城、岩手の三陸沿岸である。気仙沼市の南に隣接する宮城県本吉郡南三陸町志津川では年末に「南三陸志津川湾おすばで祭り」を開催していることから、ある程度一般的に通用するものと思われる。調査結果を図 4 に示す。高年齢層 1 名は調査もれのため集計から除外した。

高年齢層、中年層はともに使用率が 90 パーセント前後であるのに対して、若年齢層、少年層は大きく下がり、若年齢層では 10 パーセント未満である。2001 年当時、石巻市ではオシバテ類の使用率は高年齢層で約 30 パーセント、若年齢層で約 20 パーセントであり、中年層、若年齢層の使用率はともにゼロであった（武田拓(2003)による）。石巻市と比べると使用率は格段に高い。

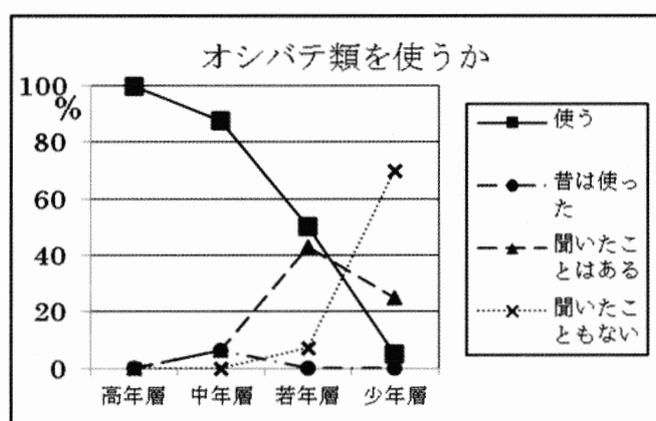
それにしても低い年齢層の使用率はどうとらえたらよいのであろうか。オシバテはやがて使用されなくなるのか、それとも今後成人し種々の集まりに参加するようになって習得し、使用する

よくなるのか。追跡調査が望まれる。

なお、『日本方言大辞典』では見出しを「しばて」としている。これに従えば、語形のバリエーションについては、接頭辞の「オ（御）」がつくか否か、「シ」が中舌化するか否か、「テ」が有声化するか否か、ということで整理できよう。おおまかな傾向として、上の年齢層ではオスバデ、オシバデが優勢で、年齢層が下がるにつれてオスバテ、オシバテが増える。

この語には民衆語源説が多数ある。具体例は菅原孝雄（2006）に詳しい。今回の調査でも、この語の語源に興味をもつ話者が多く、特に高年齢層・中年層は約半数から回答が得られた。

(図 4)



文 献

菅原孝雄(2006)『けせんぬま方言アラカルト 増補改訂版』三陸新報社

武田 拓(2000)「新しい方言語彙」(小林隆編『宮城県仙台市方言の研究』東北大学国語学研究室)

武田 拓(2003)「方言語彙の動向」(小林隆編『宮城県石巻市方言の研究』東北大学国語学研究室)

武田 拓・半沢康(2003)「仙石線グロットグラム調査報告」(小林隆編『宮城県石巻市方言の研究』東北大学国語学研究室)